
ヘリオスへの渴望 / 狂想詩集

藤原建武

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヘリオスへの渴望／狂想詩集

【Nコード】

N1710Y

【作者名】

藤原建武

【あらすじ】

「罪」をテーマに、今年の八月頃に書いた六編と、その前後の作品を随時追加していこうかと。詩を書くことは、小説を書く前に必ずやるもので。それなりにたまっています。

「声帯」／「罪」／「蘇莫者」

「声帯」

戦うことをやめた
無力、闘争心の喪失
なら生きることをやめる

正義然たる正義
騙る、偽善者ども

戦うことを忘れるな
守れないのなら
なお罪深い

怒りさえなくしたか

正義然たる正義
それこそが罪だ

声はどこから出る？
声帯を、

生きることが力強く、
在り方を示せ

「罪」

飽和

必要以上の殺戮

生きる以上の虐殺

神は許された

殺すことを

しかし今に、飽和

満ちあふれる罪

無許可に増え続ける

調和せよ

「蘇莫者」

すべての生命に祝福を

生きとし生けるもの

殺し奪うもの

神は許された

汝ら罪なし

遍く陽の下

青き海は赤に変わる

命

去るものとゆくもの

見つめろ、真実
聞け、絶命

それこそ生きる姿

神の祝福を
愛の育みを
汝ら罪なし

「ヘリオトロープ」 / 「偽りの平和の偶像の下で貪る夢」

「ヘリオトロープ」

ああ、薄明の空に輝く
白銀のヘリオス

地上の罪に空は鎖された

愛さえも渴いた今に、
彼の時代への渴望

時は穏やかに流れ、
死の影は優しく、
悲しみはひそやかに
白銀の時代、大地は歌っていた

今は地上の罪に目を閉じる

暗黒は乱雑に、
生を踏みにじる
病は残酷だ

朽ちてく時を止められない

いつか暗黒の凍土
風さえなき、静止の時

「偽りの平和の偶像の下で貪る夢」

暴かれる悪徳の構造

escape、より深く

内側より蝕んでいく

空虚なる世界

満たすは憎悪と悪意

中立とは名ばかりの腐蝕

問われないことの傲慢

その果々しさに

思想の植えつけ、洗脳

Have you watched the mirror?

That it is reflected arrogant

your face

Have you felt nothing?

Frog eater

Sink into the dark water

Lose even the breathing

罪深さに眠る

夢という名の罪悪

安楽に耽る

偽りの平和の偶像の下

「罪深き小夜」

「罪深き小夜」

戸を打つ、風

誰かに呼ばれた気がした

素足で駆け出す

空の音、聞こえてくる

乱流、翻弄される雲海

燃えるような紅

今、金色に変わる

こんな夜明けに立ち会えたなら……

打たれた鳥は羽ばたきを止め、

水面の影は息を潜める

ここにはもう何も無い

百万年の終幕に

「神は死んだ」

根付く自由、罪の動物

騙る、欲望の肯定

その痛みを誰が知るだろう

「誰よりも」の自惚れ、想うことを忘れている
傷つき痩せた今、言葉は意味を失った

揺れる瞳、かすかな息づかい

深く沈めた、知る由もない

「救いたい」願いは欲望

そして傍にある、時を重ね合う

そのことを知らなくていい

ただそれだけが欲しいのだから

憂鬱、溜息混じりに

記憶は形づくられた

求められる偶像

唱和、「神は死んだ」

解説

蛇足ながら解説——という名の言い訳——を付したいと思います。

先の三編は、同じ一つのことから着想を得ました。

「罪」と「蘇莫者」で矛盾していますが、物事の二面性をグレーに書いて一つにまとめるか、両極端に書いてみるかで、迷うことなく書いた後に気づきました。言い訳として、両極端にしてみたということ。

「声帯」はシーシェパードとかグリーンピースへの憤りです。捕鯨の、自然との闘いに「蘇莫者」、地球を食い尽くすほどに増殖した人間に「罪」。

神々いつてますが、僕はべつだんアニミズムです。

「ヘリオトロープ」からの三編は、発展ばかりを「良し」とする世界に、文句をたらたら書きました。「ヘリオトロープ」はアルカディアへの幻想です。これを主題に他五編を書きました。

「偽りの云々」は、人が罪の歴史を忘却してしまうことと、ヘイトクライムに対して。

「罪深き小夜」は人間のエゴ。

ちなみにこの三編は、一つだったものを三つに分けました。

大幅に書き直したけれど、今見返すと、自分で何を言ってるのか分からない部分も多々ありますが、読んでみて、面白かったら良かったです。

「五月に染む」

親愛なる友へ

月の照らす海に

君はいる

僕が行くところに

君はいる

正しさも血に吞まれ

その裏側の真実は

体制の暴に沈む

君が訴える声も

この闇には届かない

いつかの約束も

弁の立つ羊に貪られた

罪悪、共に歩む

共犯たれ

死を掲げよ

空さえも色を濁した

今、人の罪に目を瞑る

彼女は去った

その是非はともかく
この空さえも色を濁すなら
塵と化せ世界

一つの正しさを示すだけで
疑いさえしない

ここにはもうない

いつかの向こうで

“本当”はあるだろうか

この胸の痛みも
君の声も、届く日が来る
そう願う

「ウクライナ - 32」

H o l o d o m o r

虐殺、殺し尽くせ

沈黙、問うべくもない

享樂、貪る群れ

断罪、撃ち墜とせ

繰り返す罪にさえ還ることなく
いや増してく破壊の輪舞

己の姿に向き合うことなく
ただ積み重なって、いつか暗黒の凍土

J a n e z a b u v a y u p r o t e b e
S y n y e n e b o i z a p a k h p r e r j i

H o l o d o m o r

収獲、首を刈れ

燼滅、もはや風さえ亡き……

繰り返し積み上げられたことで
あとわずかで終わる、世界

J a n e b u d u z a b u v a t y , s h c h o p o k

i c h a t y s y a z a v a s k o l y ? n e b u d , y a k s h c h o t a k , t o j a b u d u z u s t r a r a n ,

「凶暴な感情」

壊れていくさまが見たい

美しかったものの、壊れていくさまを

血に飢えている

その先じゃない、そこへ向かう

嘆きの叫び

not love only by destroy
even if what I, you do not love
me
I want only it, only
therefore:

沈むように耽る

皮膚を裂き、肉を抉り、骨を砕く

そこへ向かう、嘆きの叫びだけが優しい

who did so it?
I hate a fellow who made me
even in the society:

朽ち果てる と、願う 甘く

耳朶をふるわす声、触れて柔らかな

憎しみの子宮

i
n

c
h
a
i
n
:
:

「憎しみの子宮」

せめぎ合い、軋む

filled the uterus with
ills
sophism, hypocrisy, deception
etc:

look at their with suspicious

Let! overflow

溶け合い、絡み合う

filled the uterus with
ills
insanity, ferocity, brutality:
jammed all

キレイごとばかりで覆った上辺に

異様な監視社会

車輪を回す舵手は？

ドグマの陥穽

そこへ到るまでの径

Let! overflow

さあ差し出せ

be union the uterus of
ills
oviparous fishery products
rot
ten smell

i s i t a w i s h ?

t h u s f i l l e d u p

滴った血で形づくる

産声をあげた

凶暴な感情

c o u n t d o w n

「KIRYA」

Days , Weeks , Months , four Seas
ons...

If nature is copied from art
The sin of the parson , that it
will be so

傲慢さに殺された、弱者、配膳の列に並べ
傲慢さを振りかざし、失われていくことの意味を
もし「そうだ」と言えるのなら、罪の所在は？

Conviction
Expose the sin
Should die

強欲に食い尽くす、斑に
崩れていく、失われていく、消えていく
無残に奪われていくことの意味を
決して忘れない

Conviction
Execute the sin
Good bye

grass

flower, rain
toxic, pollution, arsenic, mer
cury
cancer, self-cleansing action
明日へ伝えるべきこと

触れるビロードの柔らかさ
温かな、腕の中に眠る
甘い匂いがした
愛している
だから
赤く濡れた夢が

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1710y/>

ヘリオスへの渴望 / 狂想詩集

2011年11月4日09時03分発行